

〈資料解説〉海外地理学教室の紹介：フィンランド・オウル大学

岡, 康隆 / OKA, Yasutaka

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理

(巻 / Volume)

29

(開始ページ / Start Page)

54

(終了ページ / End Page)

59

(発行年 / Year)

1999-03-13

海外地理学教室の紹介：フィンランド・オウル大学

岡 康 隆

- I はじめに
- II オウル大学とオウル市
- III オウル大学理学部地理学科のカリキュラム

- IV オウル大学地理学科の研究分野
- V オウル大学理学部地理学科のスタッフ構成
- VI フィンランドの学生生活

I まえがき

著者は、1997年8月から1998年9月までの14カ月間、法政大学大学院からフィンランド・オウル大学理学部地理学科に、海外留学生として在籍した。現地滞在中は、おもに、調査・研究にあたっており、講義を受講する機会は多かったとは言えないが、日本国内外の大学の地理学科の特色を比較することは有意義だとの立場から、本稿では大学のカリキュラムを中心として、このオウル大学を紹介したい。

II オウル大学とオウル市

人口約500万人の小国家であるフィンランドには、総合大学は10校ある(全て国立大学)。そのうち地理学科をもつ大学は、ヘルシンキ、トゥルク、オウル、ヨエンスーの4校である(Fig. 1)。フィンランドでは、地理学科は理学部に属すが、ヨエンスー大学の地理学科のみ、理学部と社会科学部の両方に属している。

オウル大学は1958年創立の比較的新しい大学で、学生数は約1万2千人。大学は教育、人間、医、理、工の5つの学部によって構成されている。講義は主にフィンランド語で行われており、この国のもう一つの公用語であるスウェーデン語で開かれる講義はない。しかし、オウル大学は他のヨーロッパ諸国の学生を中心に、数多くの交換留学生(Exchange Student)を受け入れており、彼らのためには、英語での特別なプログラムが用意されている。また、フィンランド語を理解しない

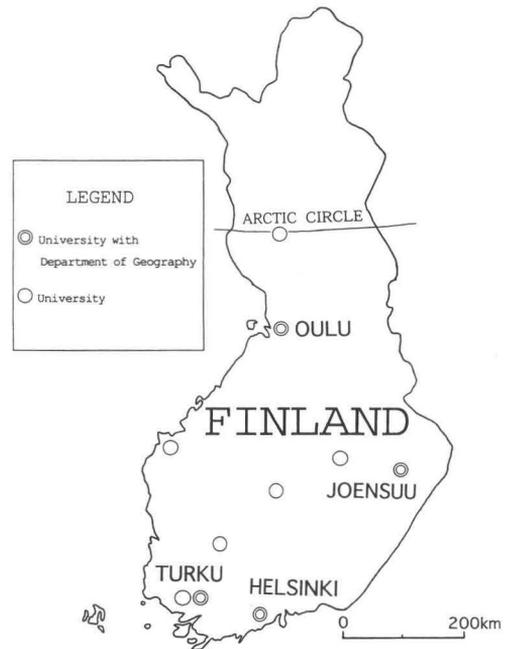


Fig. 1 Map of Finland and Finnish Universities

留学生が一般の授業を受講する場合、単位取得の試験は英語で受けることができる。そのため留学生は、フィンランド語での講義を受けた後、各自が英語で書かれたテキストを用いて自習することとなる。また、人口500万人であることから、この国で使われるテキストのほとんどはフィンランド語に翻訳されておらず、英語のものを使用する場合がほとんどである。

オウル大学のあるオウル市は、北極圏にほど近い北緯65度に位置する。そのため、一年を通しての日照時間の差が大きく、冬至で約4時間、夏至では約22時間である。年平均気温は1.9℃。オウル市の面するボスニア湾の最奥部は、グレーシア

ル・アイソスタシーによる地盤の隆起が活発で、オウル市における現在の隆起量は、年間 8mm 近くにも及ぶ (Fig.2 Eronen, M and Ristaniemi, O 1992)。市の人口は約 10 万人。それでも、フィンランドにおいては、人口位にして第 6 番目の“大都市”である。

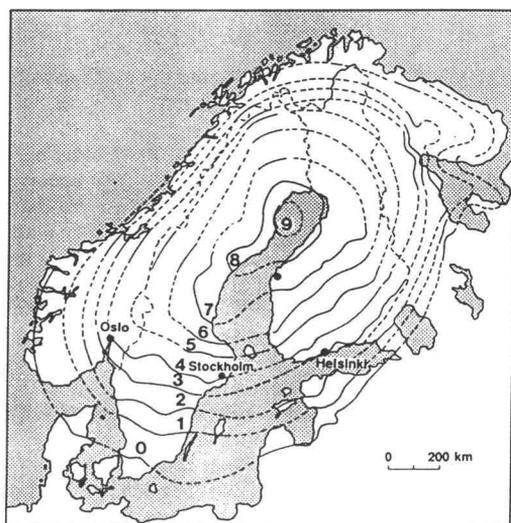


Fig. 2 Apparent land uplift in Fennoscandia, i. e. uplift relative to sea level (Eronen, M and Ristaniemi, O 1992)

III オウル大学理学部地理学科のカリキュラム

フィンランドで大学卒業 (Graduation) とは、修士号の取得を意味する。一般的には、学生は 3 年から 4 年かけて学士号レベル (120 単位¹⁾) の教育を終了し、その後 2 年から 3 年かけて研究活動を行い、修士号 (計 160 単位) を取得する。そのためカリキュラムも、学生が基礎段階から応用段階へと、体系的な教育が受けられるように配慮がなされている。

フィンランドでは大学は 9 月に開講し、秋期 (9~12 月) と春期 (1~5 月) に分けて講義が開かれる。講義は各学期ごとで終了するように工夫されており、通年開講の講義は少ない。そのため、集中講義形式をとる場合も多い。

Table. 1 は、オウル大学地理学科のカリキュラ

Table 1. Curriculum of Department of Geography, University of Oulu (Dept. of Geogr. Univ. of Oulu 1997)

1st Year/ Autumn Semester
B Orientation (1)
B Fundamentals of Geography (3)
B Regional Planning (2)
B Basic Statistics I (4)
B General and Inorganic Chemistry I (2)
B Basic Mineralogy (2)
1st Year/Spring Semester
B Cartography and Introductory Course of Spatial Data Processing (3)
S Course of Scientific Writing and Seminar (3)
B Libraries and Literature (1)
B Systems of Nature (3)
S Regional Synthesis of Nature (3)
S Substitutive Book Exam (3)
B Human Geography (3)
S Human Geography II (3)
S Field Course of Geography (4/2)
S Course of Human Geographic Landscape Research (2)
B Human Growth, Development and Educability (1)
B Quaternary Geology (3)
S Basic Statistics II (4)
S Computational Statistics (2)
2nd Year/Autumn Semester
S Introductory Course of Regional Geography (2)
S Finland as a part of Europe (3)
S World Regional Geography (2)
S Environment and Society (4)
S Course of Scientific Writing and Seminar (3)
2nd Year/ Spring Semester
S Advanced Course of Spatial Data Processing (5)
S Advanced Course of Spatial Processing (2)
3rd Year/ Autumn Semester
A Methods of Geographical Research (6)
A Studies of the Third World (1)
A Theory of Regional Planning (1)

A Principles of Planning Geography (5)
3rd Year/ Spring Semester
A History and Methodology of Geography (4)
A Principles of Planning Geography (1)
A Applications of Regional Planning (5)
A Field Course of Planning Geography (2)
Other Advanced Courses in Geography
A Free Choice Study Course (2)
A Final Examination I (3)
A Final Examination II (2)
A Final Examination III (2)
A Thesis (20)
A Thesis and Seminar I-IV (for Applied Geography and Regional Planning Line) (20)
A Pro Gradu Thesis (20)
A Practical Training (2)
B... Basic Studies
S... Subject Studies
A... Advanced Studies
() Finnish Study Weeks (= Finnish credit)
※他に外国語や、生物・地質学科の科目が必修である。

ムである。地理学科に入学した学生は、まず秋期に地理学概論、地域計画論、統計学、化学など基礎科目を学ぶ。ついで、1年次の春期から基礎科目と平行して専門科目を学ぶことができる。

2年次の秋期は地誌を中心とした専門科目の講義が開かれ、続く春期は、SASを用いて地理情報システム(GIS)の取り扱い方を学ぶ。また、2年次のうちに、次のいずれかの専攻課程に進むかを選択する。1) 教職専攻 (Subject Teacher Line), 2) 自然地理学専攻 (Physical Geography Line), 3) 人文地理学・地誌学専攻 (Human and Regional Geography Line), 4) 応用地理学・地域計画論専攻 (Applied Geography and Regional Planning Line)

このうち教職専攻は、セカンダリー・スクールで、地理学・生物学を教える資格を取得するための専攻課程で、地理学関係の単位のほかに、生物

学関係と教育学関係の単位取得が義務づけられている。

3年次からは応用科目へと移り、研究史や、研究活動を行っていく上での方法論を学び、科学としての地理学を見渡せる視野と教養を養う。そして4年次より研究活動が開始される。ただし、オウル大学には留年という制度は存在せず、これらのカリキュラムに対し、学生は柔軟な対応が可能である。また、地質学や生物学などの隣接学問も学ばなければならない。地理学科生は、66-78単位を他の学科の講座から修得しなければならない。

また、巡検についてであるが、卒業時までに行う巡検の参加日数は、選択した専攻課程によって異なる。教職専攻に進んだ学生は60日間(うち地理学関係は14-21日で、残りは生物学関係に参加)、自然地理学専攻の学生も60日間参加する必要がある。これに対して人文地理学・地誌学専攻、または応用地理学・地域計画論専攻の学生は15日間の参加でよい。

なお、オウル大学には、一般教育科目(外国語などを除く)や、副専攻は存在しない。

IV オウル大学地理学科の研究分野

オウル大学の地理学科には研究分野として、(1)自然地理学、(2)人文地理学・地誌学、(3)応用地理学・地域計画論の他に、(4)GIS・リモートセンシング(GIS and Remote Sensing)を含めた4つの柱がある。フィンランドの大学の地理学科にも、各大学によって得意とする分野・地域があるが、ここでは、その中におけるオウル大学の特色について簡潔に述べる。

(1)自然地理学

オウル大学の自然地理学の研究は、オウル市の置かれた環境を生かし、フィンランド中部・北部の地域的な特異性と関連のあるものが多い。Fig. 3は、最近、オウル大学が研究の対象としている地域を示している。ラップランドでの植生の変遷と気候変化や、森林限界付近での年輪年代学を用いた古環境復元などの高緯度でみられる様々な

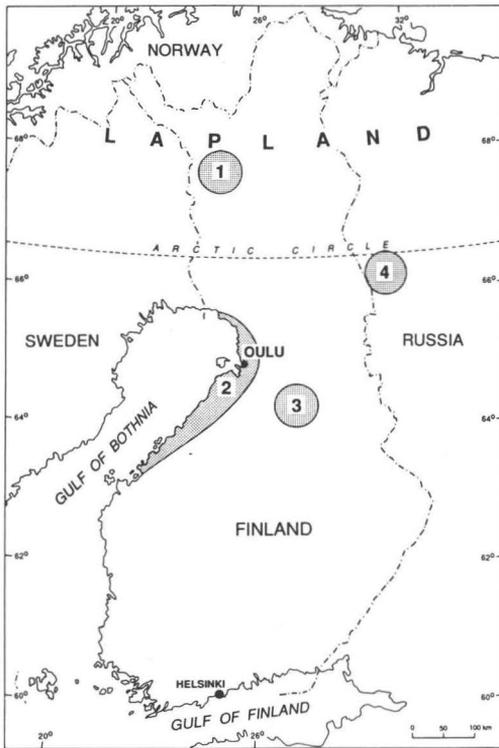


Fig. 3 Physical Geographer's principal fieldwork areas, Department of Geography, University of Oulu. (1)Ylläs-Aakenus fell area, (2)coastal zone of Gulf of Bothnia, (3)Lake Oulujärvi area, (4)Lake Paanajärvi area (J. Autio, O. Heikkinen, L. Koutaniemi, A. Colpaet and S. Luoma-aho 1994)

環境変化の研究，地盤隆起の著しいボスニア湾最奥部での海岸地形に関する研究，オウル湖（*Oulujärvi*）における水文地理や，アイス・フットなどが湖岸地形に及ぼす影響に関する研究などが行われている。また，フィンランドとロシア・カレリア地方との国境地帯における共同研究もみられる（Autio, J et al. 1994）。

(2)人文地理学・地誌学

オウル大学の持つこの分野の研究の特色は，現代の地理学に，理論あるいは経験上の適応を試みることにある。この狙いは，地域や地域変動の理論を発展させること，フィンランドの地域やその地域変動の経験的な理解にあり，なかでも社会制度上の実践に伴う，空間構造の変遷についての解釈が，ここ最近の主要テーマである（Paasi, A et

al. 1994）。

(3)応用地理学・地域計画論

地域やコミュニティーを計画するに当たっての理論とモデルを構築することが，この分野の主たる目的であるが，オウル大学では学生が修得した知識の実践，就職への優位，また大学のスタッフが現在の地域開発の抱える問題点が把握できるとの観点から，大学外の公的機関との共同研究を推進している。最近では，フィンランドの社会における，様々なレベルにおいての急速な構造変化への対応が数多く研究されている（Kinnunen, I and A. Naukkarinen 1994）。

(4)GIS・リモートセンシング

オウル大学にはGIS・リモートセンシング研究所があり，上記の3つの研究のサポートや独自の研究を行っている。GISのソフトウェアとしてArc/Info, ArcViewが，リモートセンシングのソフトウェアとしてMapInfo, ER Mapperが備えられている。ハードウェアには4 UNIX workstations, A0 digitizing table, A0 versatec electrostatic plotterがある。

V オウル大学理学部地理学科のスタッフ構成

1998年現在，オウル大学地理学科のスタッフ構成は以下の通りである。

教授：5名，講師：12名（うち専任2名），助手：6名，研究員：10名，秘書：1名，事務員：2名

このうち研究員（*tutkia*）というのは，修士号を取得した後，さらに研究を続けている者で，日本では大学院博士課程の学生に相当する。フィンランドでは博士号取得をめざす場合，大学院博士課程に進むかわりに，大学に研究員として“雇われて”研究を行うのが一般的である。助手，研究員とも任期は5年である。なお，“助教授”という制度は1997年度をもって廃止された。

VI フィンランドの学生生活

フィンランドの大学には入学試験がある。オウル大学地理学科の場合、倍率は例年9倍くらいで、易しい試験であるとはいいがたい。フィンランドの地理学科は、受験生にとって最も人気のある学科のひとつであるとともに、入りづらい学科でもある。なお、地理学科の場合、受験科目は地理学のみ²⁾である。余談ではあるが、以前、イタリアの大学に通う友人は「大学に入学試験のないイタリアでは、期末試験は学生を追い出す(退学させる)ためにある」と言っていたが、フィンランドでの期末試験は、それに比べれば、さほど難しいものではないようであり、“入りにくく、出やすい大学”という点では、日本と似ているのではなからうか。もっとも、“フィンランドで1単位を取得するには、英語で書かれたテキストを100～150ページほど理解する必要がある”とされている。大学入学後の福利厚生は良く、フィンランドでは、大学に学費がないばかりか、自国の学生には生活費の補助が政府により支給される。この制度は、家庭の経済状況にかかわらず、勉学の機

会が均等に与えられるものであり、北欧ならではのものである。また、都市や地方によって大学進学率に開きがないような政策も国によって打ち出されている。これは以前に、ヘルシンキの一部の家庭の大学進学率が、地方に比べ非常に高かったことが社会問題となったためである。また、学生の就職に際し、年齢や学歴による差別は少ないため、徴兵や就労による休学、女性ならば出産や育児をこなしながら、ひとりひとりが自分のプランをもって、気長な学生生活を送る者も多い。

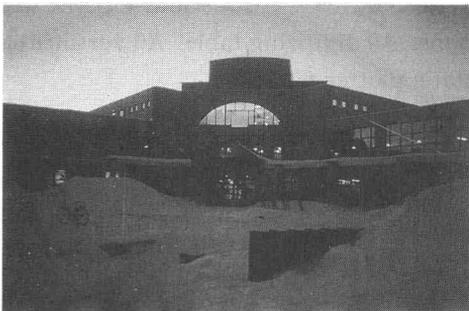
最近のオウル大学の地理学科に入学する学生の男女比をみると、女子学生の数が圧倒的に多い。例年、入学定員は30名と決められているが、今年度では80%、昨年度に至っては90%までが女子である。この傾向は地質学科や生物学科でもみられるという。各大学の研究施設においても、精神的なフィールド・ワークを行う女性の姿も多い。

謝辞

本留学に際し、法政大学大学院から奨学金の給付を受けた。また、フィンランド留学に関し、公私にわたる暖かいご支援をいただいた法政大学経済学部・田淵 洋教授と、著者を快く受け入れて下さり、家族のように接して下さい、オウル大学・Olavi Heikkinen 教授、Jyrki Autio 助手 Jari Jämbäck 助手の以上の方々へ心より感謝いたします。また、著者が法政大学入学以来、常にご指導していただき、今年3月をもって法政大学を退官される法政大学文学部・市瀬由自教授には、留学の報告をさせていただくとともに、本紹介文を捧げます。

注記

- 1) フィンランドには独自の単位制度があって、40時間のWORKで1単位となる。フィンランドの1単位はヨーロッパの大学間における、留学生の単位互換制度(European Credit Transfer System)上の1.5 ECTS単位に相当する。
- 2) ただし、高校卒業試験(合格率35%)に合格していないと、大学入試は受けられない。



Photol. Main entrance of University of Oulu



Photo2. Field course in Lapland (Physical Geography)

参考文献

- Autio, Jyrki, Olavi Heikkinen, Leo Koutaniemi, Alfred Colpaert and Seppo Luomaaho (1994): Physical geography at the University of Oulu: Research in Finland and adjacent areas, *Fennia*, 172: 2, 163–171.
- Department of Geography, Faculty of Science, University of Oulu (1997): Information Package European Credit Transfer System, *Oulun Yliopistopaino*. Oulu, 44p.
- Eronen Matti and Olli Ristaniemi (1992): Late Quaternary crustal deformation and coastal changes in Finland, *Quaternary International*, 15/16, 175–184.
- Kinnunen, Ismo and Arvo Naukkarinen (1994): The challenges of society and the teaching of planning geography at the University of Oulu, *Fennia*, 172: 2, 73–179.
- Paasi, Anssi, Veli-Pekka Raatikka, Petri J. Raivo and Heikki Riikonen (1994): Regions, Places and landscapes: Research in regional and human geography at Oulu University, *Fennia*, 172: 2, 153–161.